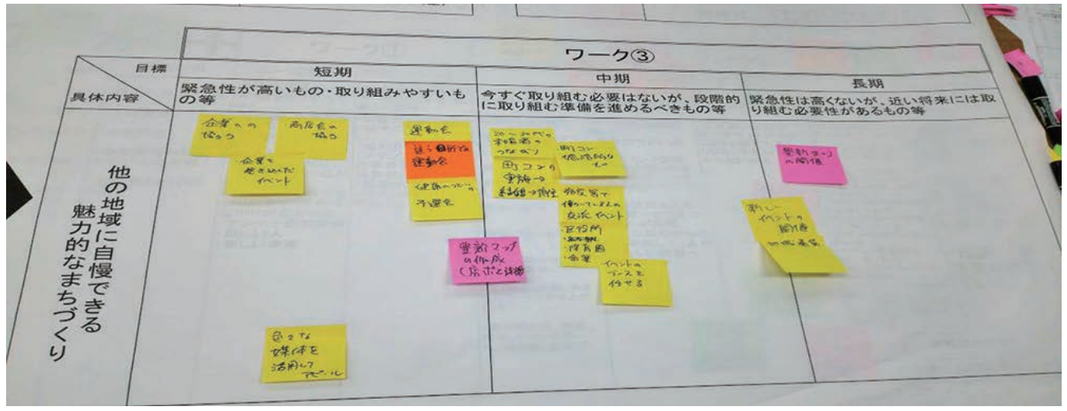
策定準備会（H30.2.17）



計画策定までのスケジュール

H29.6.25	説明会
H29.7.15,16,30	分科会（全11分科会）
H29.9.2,3	ワークショップ①（合同分科会）
H29.10.28,11.13	ワークショップ②（合同分科会）
H29.11.13	スタッフ会議①→今後に向けた打合せ
H29.12.16,18	中間まとめ報告会・学習会（公開講座）・《各1回》
H30.1.23	スタッフ会議②→素案の骨子&コンテンツの検討
H30.2.17	ワークショップ③（策定準備会）→骨子の作成 ← スタッフ会議③→骨子の検討
H30.3.6	策定委員会①→骨子の検討 ← スタッフ会議④→素案の作成
H30.3.20	策定委員会②→素案の検討 ← 素案の公表→地域内の意見集約
H30.4.3	策定委員会③→素案修正&計画の検討 ← スタッフ会議⑤→最終版の作成
H30.5.19	計画（最終版）の公表&報告会

高齢者・障がい者を地域で支える（A班で出さ　れた主な意見）

視点 / 課題	課題分析	ニーズ把握	現状における強み	具体的対応策				地域の重点目標
	考えられる要因	求められるニーズ（必要とされるもの）	活用できる資源・要素（既存の事業・拠点・人材等）	実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
・一人暮らしの人がいざという時に心配 ・町会によって温度差がある ・町会に入っていない人の把握が難しい ・障がいがある人への関心が薄い ・新しい参加者が少ない ・男性同士の交流の場 ・いつも同じメンバーが参加	・家族が近くにいない ・人手不足 ・人付き合いが苦手 ・障がい者への理解が薄い ・入りにくいので同伴が必要 ・宣伝不足 ・交流の場がない ・一人暮らしの人の見守りシステムがない ・個人情報の問題 ・町会に入っていない人へのアクション ・町会加入者も役割を持たない ・各町会にネットワーク委員がいない	・近隣の方の協力 ・PR強化 ・気軽に声掛け集える場が必要 ・障がいをどう見るか？ ・要援護者をどうとらえるか？ ・保育所等との交流 ・障がい者と一緒にできること ・周知の工夫 ・一人暮らしが多い ・団塊の世代がつながることにできる場づくり（今から土台をつくる）	・地域の介護事業所との連携 ・包括や社協との連携 ・ボランティアが多くいる ・使える施設がある（ぷらっと豊新・憩の家・ワークセンター・小学校など） ・民生委員 ・よどまちステーション ・在宅医療に関心のあるDrやクリニックがある ・世代間で防災訓練など実施	・掲示板の活用 ・学生等との交流 ・障がい者の雇用 ・健康セミナー等の開催 ・民生委員の活動内容等を知ってもらう機会を作る（交流の場） ・カフェ形式の地域のコミュニケーションの場をつくる ・公共のシステムとして情報を発信、届けられることができないか ・事業者と地域との交流の場づくり（小規模イベント等）	・新しいボランティア ・民生委員・児童委員 ・ボランティアセンターと地域との共同事業（講座など開催） ・地域とPTAとの協働	・協賛企業を募る ・ホームページの活用 ・広報誌の広告料等の活用 ・青パトの宣伝利用（行事等）	・企業とのコラボ ・障がい者にも百歳体操や食事サービスの手伝いをしてもらい、参加を呼び掛ける ・強いリーダーシップを発揮できる人材	・地活協の活動と連携（区社協の視察） ・区社協を活用する ・気軽に取り組める場づくり ・〇〇について△△しあう場をつくる？

施設など開放してもらう

安心して暮らせるまちづくり～防災・防犯～　（B班で出された主な意見）

視点／課題	課題分析	ニーズ把握	現状における強み	具体的対応策				地域の重点目標
	考えられる要因	求められるニーズ（必要とされるもの）	活用できる資源・要素（既存の事業・拠点・人材等）	実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
・町内全域への啓発「区民110番」 ・地域の連絡体制 ・高齢化 ・構成員の不足 ・情報発信力不足	・地域住民の方の参加をどのように求めるか ・住民の方に必要性をアピール ・プライバシーで連絡が取れない。地域全体に回せない ・夜の暗さ（照明不足）	・個人情報提供への同意 ・町会毎の活動と提供者 ・地域でライフラインを応急確保 ・防犯カメラの増設（各町会毎） ・防犯には夜の照明が有用 ・夜間や休日の医療体制（発災が平日日中でなかったら） ・町会未加入者や外国人などへの連絡体制	・定期的におこなっている防災訓練 ・若い人への協力について→東淀中学校生との連携 ・災害時に地域の事業者との連携 ・診療所を含めれば医療機関は多い ・区医師会との協働訓練を実施	・子ども見守り、防災訓練、避難訓練 ・市役所助成制度の活用、防犯灯、防犯カメラ ・町会の枠を離れて未加入者も含めての訓練。住民票がなくても働いている人も対象に ・災害時、救急時の講習会 ・夜間巡視 ・夜間LEDを点灯し暗い所をなくす ・町会と企業のお見合い。町会と企業の災害協定 → 町会と企業・・・持ちつ持たれつ	・子供会活動に参加していたOB＆OG（ソフトボール・キックベースボール） ・民生委員の助力（高齢者・要援護者の避難） ・PTA	・防犯カメラの増設を地域で考慮 ・防犯灯増設	・危険箇所の抽出（調査） ・防犯カメラ、防犯灯 ・SNSの活用	・住民全体に防災・防犯の意識づけ

平日昼間の災害時体制

地域で住んでいる専門職の方は？

・子ども教育 → 大人への啓発の視点
・防災と防犯を分けて整理
・各町会の看板に犯罪発生件数を掲示
・見守り（登下校）のPR活動 → 参加者が増える
・防災…いつか分からない、防犯…発生率が高い、力を入れる分担
・防犯件数を掲示するとマイナスイメージを持ってしまう場合も
・安心して住めるプラスのイメージ
・定住者が少ない地域では逆効果
・子供会のキャンプでのテント張りと一緒に体験
・防災は起きる前と後に分けてすべきことを考える
・防犯は人権問題にも注意しなければならない
・防災訓練の参加者が固定 → 他のイベントと合わせて実施
・それぞれの活動をネットワークで教え合いして不審者を発見、腕章ネットワーク
・高齢者の方にももっと見守り活動に参加してもらう（旗・わんわんパトロール）

子どもを地域で育てる（C班で出された主な意見）

視点／課題	課題分析	ニーズ把握	現状における強み	具体的対応策				地域の重点目標
	考えられる要因	求められるニーズ（必要とされるもの）	活用できる資源・要素（既存の事業・拠点・人材等）	実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
・ボール遊びをする場（公園も）がない ・人手不足→同じメンバーがたくさん背負いこんでしんどそう ・児童館がない ・場所の確保が難しい ・町会に入っていない子どもは分からない ・大人のコミュニケーション不足→影響大 ・教職員の負担→昔はよくて今はダメな事	・ゲーム、スマホなど面白いものが多い ・公園に遊びの制限がある ・習い事 ・地域の道路や公園で遊んでるとうるさいと感じる→静かにしてほしい ・子育て世代が忙しすぎる（仕事）。親が仕事で余裕がない ・子どもに声掛けするのに勇気がいる ・子どもと会う事が少ない ・子どものニーズの多様化 ・子どもが忙しくなった ・子ども自身がハイキングに興味がない ・親子ハイキングの激減 ・キャンプでも参加者が減っている ・地域の中で子どもの育て方が分からない ・モンスターペアレントの存在 ・出来る人がすればよいと考えてしまう ・何をどう育ててよいか分からない ・教員の対応力 ・先生の地域愛	・親子で集える場所が日常的にあることが必要 ・子どもが安心して遊べる場所 ・埋もれている人材の発掘 ・気軽に参加できる環境 ・町会への加入促進 ・親が地域のことを知る ・「アカンで!!」という態度 ・親がいないと校区外（図書館・公園等）に自由に行けない ・責任をどこに置くかが問題になっている ・かぶと公園のリニューアル（遊びやすいように） ・モニュメントの移築→かぶと公園から他の場所に ・今の地域に合わせた公園にしたい ・公園内の区画整理→子どもの年代に応じて安全に遊べるように	・憩の家 ・ぷらっと豊新 ・ワークセンター豊新 ・子育てサロン ・福祉会館 ・よどまちステーション ・地域の見守り隊 ・町会のお祭り（豊新第二振興町会が多幸公園で実施） ・肉フェス ・B級グルメフェス ・ウインターフェスティバル ・盆おどり ・地活協→新たな参画組織がでてきた ・学校	・校庭開放の増加 ・学校の利用 ・人材バンク ・子どもに社会教育を教える（そうじの仕方等） ・双方向の情報 ・地域との協働 ・栄養価の話 ・食育の話	・PTAの役員の活用 ・ボランティア（活動別） ・子どもの祖父母→家の前に立ってもらう ・学校の先生に参加してもらう 違う視点からの参加者が増える よどまちカフェで子ども食堂	・各地域の学童が多幸公園のお祭りに参加している→協賛金が得られる ・お祭りでの売上金を事業費に充てる ・いくら必要かというめぼしが必要 ・学校の中の畑を利用して地域とふれあう	・中心的担い手の育成 ・周知方法の工夫 ・地域で使える通貨 ・双方向のメリット ・子ども食堂の企画 ・食育→中学生になったら自分で料理 ・団体（NPO等）がしっかりしないといけない ・継続 ・生協など協賛してくれる組織体の活用 ・イベント限定の通貨→家の不要物などと交換 ・先生のあいさつ ・後継者の育成 ・子ども110番 ・子どもの見守り ・子どもの声を拾う場所 ・子ども井戸端会議 ・先生の協力 ・夢と目標を持つことを考えられる事業 ・学校とPTA ・移動図書館 ・子ども目線を大切にした場 ・つながりの場（PTA・小学生の交流の場） ・参観日に大掃除のイベント ・掃除の仕方を教える ・学校の中の畑を利用 ・豊新のぶれない方針の定着化	・大人も子どもも先生も地域も集まれるイベント ・ギネスに挑戦 ・防災訓練 ・地域のチカラをつなぐ会（仮） ・子ども向けポイント制事業

他の地域に自慢できる魅力的なまちづくり　（D班で出された主な意見）

視点 ＼ 課題	課題分析	ニーズ把握	現状における強み	具体的対応策				地域の重点目標
	考えられる要因	求められるニーズ（必要とされるもの）	活用できる資源・要素（既存の事業・拠点・人材等）	実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
・人と人のつながり ・事業者、企業とのつながり ・地域と住民が高齢化している ・ある程度の居住期間の人が多い。定住者が減る（身近なので・・・） ・回覧板を見ていない ・周知が行き届いていない	・人材育成 ・人材不足 ・各団体等の役員でない人の参画 ・豊新会（豊新小学校PTA役員OB会）とPTAのつなぎ	・幼稚園、保育園への周知 ・従事者の募集方法 ・人と人とをつなげるシステムづくり ・事業者とのつながりづくり ・人（職員）とのつながりにより、人のつながりが広がった ・アンテナ役の育成 ・新しい人 ・新しい事業	・B級グルメフェス ・健康の日のつどい ・盆おどり ・スタンプラリー→行事参加したら商品券発行 ・民踊の出前講座 ・ウインターフェスティバル	・発表する場の確保 ・豊新地域のつながりをPRする場（新・リニューアル） ・体力測定 ・居場所づくりのきっかけ ・事業に参加しやすい形 ・図書バザー（リサイクル） ・交流事業の活用（子どもと高齢者） ・自分たちの楽しみを他の色々な方々との交流へ ・読み聞かせ、囲碁、将棋、キャッチボール、折り紙、昔遊び ・豊新を区内のリーダー的存在に ・地域の壁を取り除いたイベント ・豊新のキャラクター ・朝市の開催 ・定住したいと思うようなシンボル的なものを作る ・キッザニアの豊新版（お店の体験など）	・PTAから地域活動へ ・青年のつどいの拡充 ・人材バンク創成 ・役職の垣根を取り除いた場 ・ユースリーダーの育成 ・退職後の人たちの発掘→どう見つけるかが課題 ・小さな単位から行事に参加してもらい（人材の）発掘へ ・イベントの参加者をメンバーに取り込む ・女性を引っ張り出す→男性につなぐ ・ボランティアの新規開拓（窓口を作る）	・ふれあい交流事業→イベントが大きくなると経費も大きくなる。それほどかからないかも	・各事業を実施している時に基本データをつくる ・ボランティア受付ブースをイベント毎に設ける ・地道なことも必要 ・色々と新しいことをするにも、もっと話し合うことが必要 ・（新旧行事）年内行事の見直しも必要 ・新しい取組みの周知→正確に伝える ・イベントをするには人がいる ・イベントの継続性（人、金、色々） ・今している取組みをもっと周知していく ・ボランティア募集を記事に入れる ・人が集まる機会に大きく映像を使って周知する ・お店に告知チラシを貼ってもらう ・マンションや幼稚園等に周知してもらう ・ツイッターやLINEの活用⇒お店から発信（割引券付） ・年間計画でイベントを実施	・運動会、体育大会の開催 ・新しい事業（新しい人が参加）を実施する ・役員へ若手を起用していく 広報紙の充実 親が見えるような仕掛けづくり

参加者の声

- 他の参加者と意見交換していく中で、アイデアが発展していくのが良かった。
- いろいろな意見が出たが、総体的には、人と人とのつながり、地域住民同士の交流が大事という結論になったような気がする。
- 反対に、あのような場に参加しない人（ＯＬや独身サラリーマン、学生など）の意見を聞いてみたいと思いました。
- いろいろなグループに入って、意見することは良かったと思います。知識がない分野ですが、考えさせられました。
- 「決して人の意見を否定しないこと」というルールを決めてくれたので、発言をためらうような実現不可能な考えも思いつくままに発言できました。模造紙に無造作に貼り付けられたみんなの『思い』や『希望』が、会議を重ねるうちに現実味を帯びていくのが、とても新鮮でした。

- 地域の関係諸団体の人達に意識をつけるという意味ではとても良かったと思います。今後も引き続きお願いしたいと思います。
- 「豊新　地域保健福祉計画」の分科会やワークショップに参加して、豊新の現状や将来起こる問題を地域の皆様と共有できた事は非常に有意義でした。「一波揺らいで、万波揺らぐ」の言葉の様に計画で作成した目標が一波となり、豊新地域に広がる事を期待しております。
- 三人寄れば文殊の知恵の言葉通りで、課題を引き出し個々に集約すれば相当数の意見が出された。既に実施・実行されている事例、新しく提示された事例について、前者に対しては継続の励行と改善が求められ、後者については如何にして組織的に取組み活動方針を確立するかの努力が必要と思います。

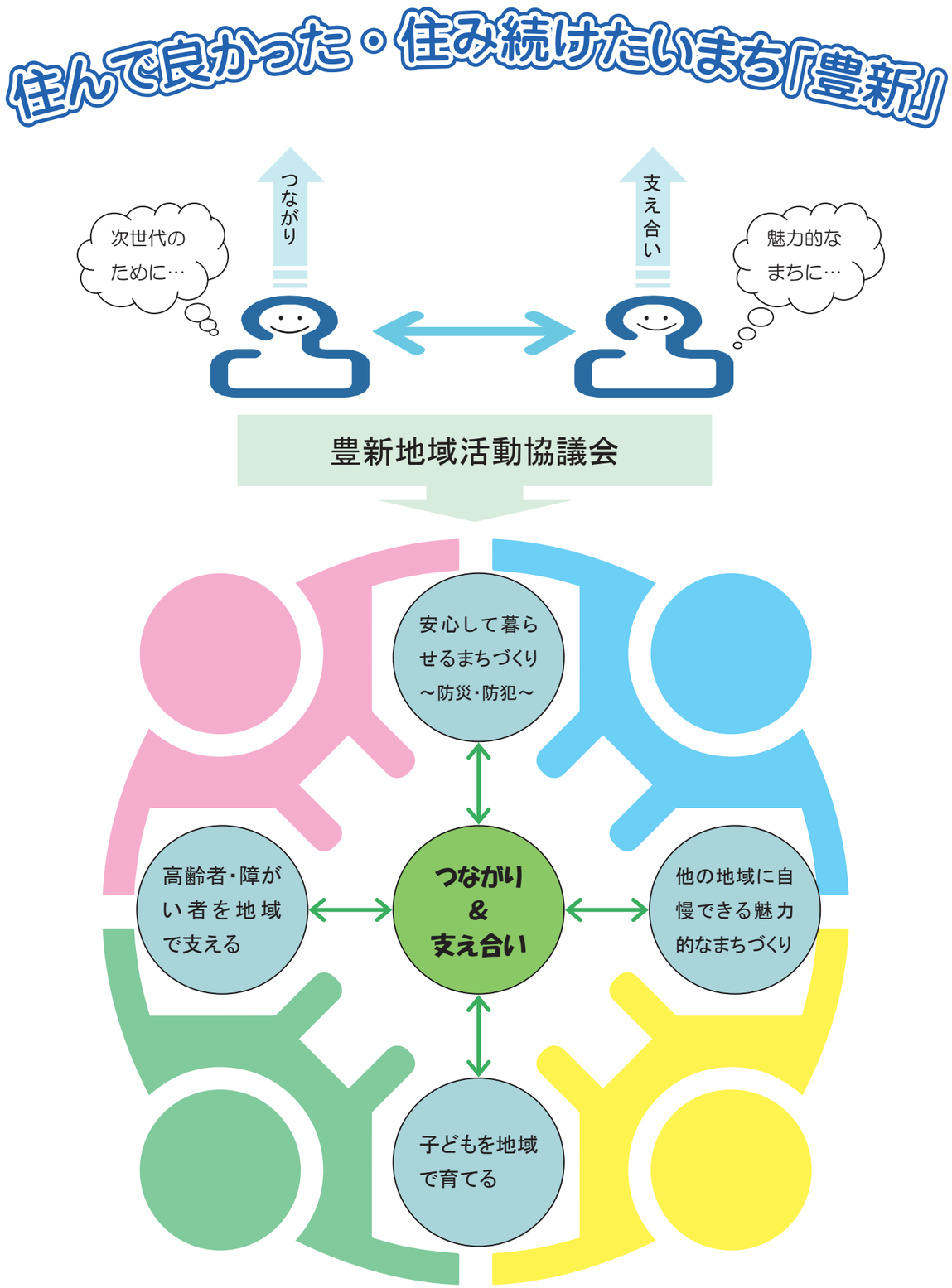
- 参加してみて皆さんの意見などを聞き、今まで自分が気づかなかったことがたくさんありました。豊新地域のたくさんの人にも知ってもらい、より良い豊新にしたいです。

- 昨年より保健福祉計画に基づく説明会、分科会、合同ワークショップ等を進めてきたところですが、高齢者・障がい者問題、安心なまちづくり、防災・防犯等々、４グループに分散で意見を出し合い有意義な会合であったと思う所ですが、今回色々なテーマのワークショップ中で意見が出ていたように、現在の地活協で開催されている様々なイベント、行事等においてボランティア参加者が常に同じメンバーで行なわれている現状が問題です。今後は新しい人材をどのように参加に結びつけていけるか、大きな課題であると感じた所です。高齢者等テーマについては従来のネットワーク、行政とのつながりがあればと感じました。
- 日本では町内での「議論」という雰囲気にはなりにくいのでこういう形での「パブコメ」はいいことと考えます。計画がその場にいない人（教職員とか企業）の負担を当て込む傾向にあるのでは？学校現場では傍で見るより余裕がない（食物アレルギー、本来家庭でなすべき躾、児童の帰宅までの責任、クレーム対応等）事も理解いただき、計画ではお手柔らかに表現いただければと存じます。災害対策では、主に南海トラフ地震が想定されているので「起きたら終わりなので考えても仕方ない」という雰囲気も感じました。梅雨時の大雨・堤防決壊時に要援護者をどう避難させるか？といった事に現実味があるのでは？
- ５年後、１０年後の地域をどんな地域にしたいかを真剣に考える機会を頂きありがとうございました。
- ワークショップや学習会などを通じて「想い」や「考え」を「言葉」や「文字」にする作業からバラバラだった「想い」や「考え」をまとめて「形」として「目標」や「具体内容」を作ることでした。当初のワークショップからは何をしたらいいのか、求められているものがわからなかったが、最終的には「豊新地域」「みんな」の求めるものが、「形」になったと思います。

- 各部会で色々な意見が出たと思います。世代によって感じ方や思いが違ったりと実現するのかは難しいとは思いますが、せっかく出た意見なので将来的には進んでいってほしいと思います。

「豊新 地域保健福祉計画」の将来像

基本目標	重点項目 キャッチフレーズ	時期 具体内容	短期 緊急性が高いもの・取り組みやすいもの等	中期 今すぐ取り組む必要はないが、段階的に取り組む準備を進めるべきもの等	長期 緊急性は高くないが、近い将来には取り組む必要性があるもの等	横断的な取り組み	達成目標
みんなですすめよう　豊新　支えあうまちづくり	高齢者・障がい者を地域で支える	○要援護者の見守り活動の充実 ○生きがいづくり ○支援体制の確立・充実	○大きなイベントではなく、小さなつながりからすすめていく ○色々な人が集える場所を増やす	○ニュースポーツを通した交流	○ネットワーク委員のような地域と他をつなぐ人材の確保	つながりづくり、福祉コミュニティの構築	住んでよかった、住み続けたいまち　豊新
	安心して暮らせるまちづくり～防災・防犯～	○災害時の連絡体制の確立・充実 ○警察、消防、区役所との連携	【防犯】 ○防犯カメラ ○見守り ○高齢者版子ども110番 【防災】 ○防災地域訓練 ○防災意識づくり ○備蓄の確認、保管場所の確保 ○淀川氾濫時の避難マップ	【防犯】 ○子どもの犯罪防止に力を入れる ○青少年犯罪のとっかかり（喫煙習慣）をなくすべく子どもの禁煙 【防災】 ○災害時のスーパー、コンビニとの連携協定	【防災】 ○民間のビルやマンションにも避難できるような体制 ○AEDを各コンビニに設置		
	子どもを地域で育てる	○子育て支援体制の充実 ○身体・心の育み ○非行防止対策 ○学校との連携	○学校の協力 ○先生のあいさつ ○大掃除の“砂”を掃く取り組み ○掃除の仕方を教える ○ウインターフェスティバル ○土曜授業の日に“朝ごはんやさん” ○豊新のキャラクターをつくるコンテスト	○かぶと公園改装のための募金活動 ○色々な職業の人が授業をする（PTAなど） ○学校の取り組みの定着化	○継続的に担い手が入ってくる仕組みづくり		
	他の地域に自慢できる魅力的なまちづくり	○生活習慣病の予防 ○介護予防 ○スポーツレクリエーション ○イベントの充実 ○地域資源・人材を活かした強み	○企業への協力＆商店会の協力…協働でのイベント ○商店会の協力 ○これまでと違う形での運動会“健康の日のつどいの予選会” ○豊新マップの作成（店舗との連携）	○マチコン（婚活的なもの）…20～30代の未婚者のつながり→結婚→定住 ○施設等で働いている人（区・企業・事業所・保育所等）の交流イベント…イベント時に1ブースを任せる	○豊新まつりの開催 ○新しいイベントの開催 ○地域通貨の導入		



「豊新　地域保健福祉計画」の理念・目標・重点項目について

基本理念

乳幼児からお年寄りまで、健康で安心して暮らせるまち、お互いが助け合い、明るく楽しい充実した生活をおくれるまち、住んで良かった、住み続けたいまち豊新をめざす。

目　標

「みんなですすめよう　豊新　支えあうまちづくり」を基本目標に、地域のつながりづくり、福祉コミュニティの構築など、横断的な取り組みを通じて、基本理念に沿った目標の達成をめざす。

重点項目・具体内容

1．高齢者・障がい者を地域で支える

○要援護者の見守り活動の充実
○生きがいづくり
○支援体制の確立・充実

2．安心して暮らせるまちづくり～防災・防犯～

○災害時の連絡体制の確立・充実
○警察、消防、区役所との連携

3．子どもを地域で育てる

○子育て支援体制の充実
○身体・心の育み
○非行防止対策
○学校との連携

4．他の地域に自慢できる魅力的なまちづくり

○生活習慣病の予防
○介護予防
○スポーツレクリエーション
○イベントの充実
○地域資源・人材を活かした強み

おわりに

豊新地域の皆さま、「豊新　地域保健福祉計画」の完成おめでとうございます。

約1年間、皆さんが集まることのできる夜の時間帯を中心に計画づくりを進めてきました。計画づくりには、そのプロセスを通して豊新地域に密着した課題やニーズの把握、活用できる社会資源といった地域の強み等お互いが気づきその情報を共有できることやグループ演習を通して具体的な対応策のアイデアが生まれてくる魅力があります。さらに、計画づくりのプロセスを通して、豊新地域の実情から地域の課題を明らかにし地域の強みも活かした重点目標がみえてきます。実際に豊新地域で生活されている住民や働いている関係者皆さんの声を計画に反映していくことは、豊新の地域力を高めることにもなります。

計画づくりでは、「豊新　地域保健福祉計画」の４つの基本理念・目標（①高齢者・障がい者を地域で支える、②安心して暮らせるまちづくり～防災・防犯～、③子どもを地域で育てる、④他の地域に自慢できる魅力的なまちづくり）に基づいて、４つのグループに分かれ皆さんの声を計画の基盤となるワークシートにまとめていき、最終段階には他のグループメンバーの意見も反映できてみんなで共有できるようなワールドカフェ方式を取り入れて仕上げていきました。

今回の計画づくりにアドバイザーとして参加させていただき、豊新地域の皆さんから多くのことを学ばせていただくと同時に皆さんの“地域愛”を感じることができました。特に地域の課題の抽出から具体的対応策の話し合いの場面では、「やってみよう」「とりくんでみよう」「こういうこともできるのでは」という皆さんの熱い思いに触れることでき、私自身の喜びにもなっています。計画づくりの貴重な機会に参加できたことを心より感謝申しあげます。

この計画はこれからが本格的なスタートになります。重点目標をもとに整理された中期、長期目標を見据えながら、まずは短期目標に向けて、できることから取り組んでいくことが大切です。

この計画がさらに豊新地域のさらなる活性化や発展につながっていくことを期待しています。目標１つ１つが達成できるように一緒に取り組んでいきましょう。

梅花女子大学　綾部 貴子

あとがき

今回の計画策定には地域で活躍されているたくさんの方に係っていただき、様々な観点から意見や要望、普段感じておられることを出していただきました。なかなかこれだけ時間をかけて振り返り現状を見つめ、課題を洗い出し、どう行動し、どういった地域にしたいのかを考えることが無かったように思います。

どのテーマでも言えたことは、「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」という言葉のように、「困ったときはお互いさま」の精神で、他人事ではなく、一人ひとりが助けを必要とした人に手を差し伸べるようにしていくことが大切ではないかと思われます。今後はもっと多くの方に地域活動を知ってもらい、携わっていただくことが必要なのだろうと感じます。

たくさんの「こんな地域であって欲しい」「こんな地域で暮らしたい」という多くの方々の思いを形にしていけるように、地域活動協議会を中心に一緒に取り組んでいきましょう。

豊新地域活動協議会　役員一同

ボランティアスタッフ募集

「この時間なら手伝えるよ」「こんなことなら出来るよ」など、少しでも助けていただける方は下記までご連絡ください。

他にも「こんな特技があるよ」「こんなことがしてみたい」「どうしたらいいの？」という情報、要望や相談もお受けしています。

【お問い合わせ先】
東淀川区豊新４丁目１８－９　豊新憩の家
豊新地域活動協議会　事務局長　川﨑敦弘
ＴＥＬ　：０８０－５３１１－６６４１
ＭＡＩＬ：houshin_net@maia.eonet.ne.jp
ＨＰ　　：https://houshin.jimdo.com/

住んでよかった
住み続けたいまち

豊 新

平成30年4月

編集・発行　豊新地域活動協議会
協力　梅花女子大学 綾部貴子
東淀川区役所
東淀川区社会福祉協議会